ブドウ酒様血管腫に対し色素レーザー及びPGE₁を用いた治療法

平山 峻、石原秀一

東京メモリアルクリニック

Treatment of Portwine stain by using dye laser and PGE₁ intravenous dripping method

Takeshi Hirayama, M.D. Shyuichi Ishihara, M.D.

Tokyo Memorial Clinic, Tokyo

The authors had been treated for 98 cases with portwine stain by using laser irradiation method, also 35 cases of 98 cases were treated by dye laser irradiation method plus PGE₁ intravenous dripping method simultaneously.

Analysing our cases, 32 cases were male and 66 in female of which ratio was one to two. Observing our patient's age, the age below ten years old was the greatest number and followed by two decade and one decade in order. Localization of the lesion was concerned, face, extremities and neck regions were found of which areas were all exposed one, so patient might be more paying attention for the treatment.

Method :

35 cases with portwine stain were treated by dye laser and intravenous PGE₁ dripping method simultaneously.

Result :

Excellent in 27, good in 6, fair in 2
and poor was none

Conclusion

1. 35 cases with portwine were treated by dye laser and intravenous PGE₁ dripping method which revealed excellent result.
2. This method was also more effective for children
3. Two poor resulted cases revealed deep seated type of portwine stain which might be needed for further surgical intervention

1. 諸言

演者等は1952年より1955年に至るまでの3カ年間に362例のブドウ種様血管腫を診断した。其等の中、確実に診断、治療、追跡のできる98例に

ついて述べる。

全症例中、35例にたいし、色素レーザー照射中、プロスタグランジンE₁、(PGE₁)を生理食塩水とともに点滴注射を行い、血管腫中の血管を拡大、腫

脹させた状態で治療をおこない好結果をえたので報告する。

2. 対象

対象例は、ブドウ酒様血管腫 98 例であり、以下患者の性別、年齢別、部位別、照射回数、期間等について述べる。

1) 性別

女性：66 例、男性：32 例であった。その比率は 2 対 1 の割合であった。

2) 年代別

来院患者を年代別に分類して見ると、10 歳未満の患者が最も多く、ついで 20 歳代、10 歳代の順であった。

10 歳未満の患児が他の年代の患者と比べて多い理由は患児の両親が赤痣に対し心配の余り来院させたのではないかと強く推定された。

また次の順位の 10 歳代、20 歳代の患者来院数が多かった理由とは、この年代は、赤痣を最も気にする年頃であったと思われる。

3) 部位別；

部位別では顔面、四肢、頸部、その他の部位の順であった。

来院患者と部位との関係では、いずれも身体中、露出部であったため、最も目立ちやすい部位であった。

4) レーザー 照射回数、期間；

治療回数は、一回から四回までであり、PGE₁ の点滴例では、照射回数がやや減少している傾向を示していたと考えられた。

照射期間は一年から、一年半であった。

この理由としては患者は幼児が多かったため、全身麻酔下でレーザー照射を施行した。そのために手術間隔が延長してしまったことと、経済的な理由でもあった。

3. 照射法；

今回の特種治療法としては、単純に病巣部を照射するのは違って、色素レーザー照射直前より PGE₁ を生理食塩水と共に点滴注射投与した。PGE₁ 投与法は、文献報告では、ただ一回の肺循環によりすべて吸収されてしまうので、経動脈投与法がよいと言

われているが、演者等はブドウ酒様血管腫患者に経静脈に点滴投与してみた所、血管腫病巣の明らかな発赤、拡張がみられた。また照射直後の生検結果からも、臨床所見からも、PGE₁ 投与法は明らかに血管拡張、且つ血管内に赤血球の充満状態が認められた。

したがって、これらの結果から、ブドウ酒様血管腫に対し、色素レーザーを照射する際に PGE₁ を投与し、35 例を治療した。

4. 結果

ブドウ酒様血管腫に対し、PGE₁ を注射した 35 例について判定した。

判定法の Excellent 27 例とは、血管腫が完全に、消失した状態、Good 6 例とは、大部分が消失、改善された症例、Fair 2 例とは、多少改善されたが、なを赤味が残っている症例、Poor 0 例とは治療前より悪化または瘢痕化を示した状態をいう。

これら症例中、2 例の Fair 症例は、照射前の組織観察像で血管腫が皮膚全層に波及していたものであり、このような症例に対しては、今後さらに検討の必要があると考えている。

5. まとめ

1. 色素レーザー照射の際、PGE₁ を併用投与すれば、ブドウ酒様血管腫に対して、極めて有効な治療法であると考えられる。
2. 幼少児例では、特に著効を示した。
3. 不成功例では、今後外科的療法が必要であると考えられる。